

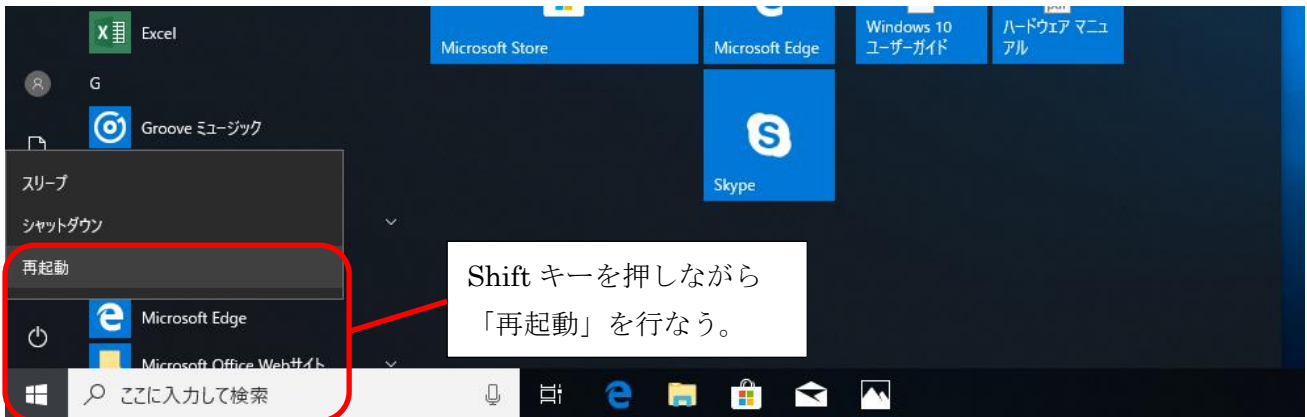
■Windows8 以降の PC への通信用ドライバーインストールについて

Windows8 以降の PC に、通信用ドライバーがインストールできなかった場合、以下の手順を行って、ドライバー署名の強制を無効にすることで、インストールが行えるようになります。

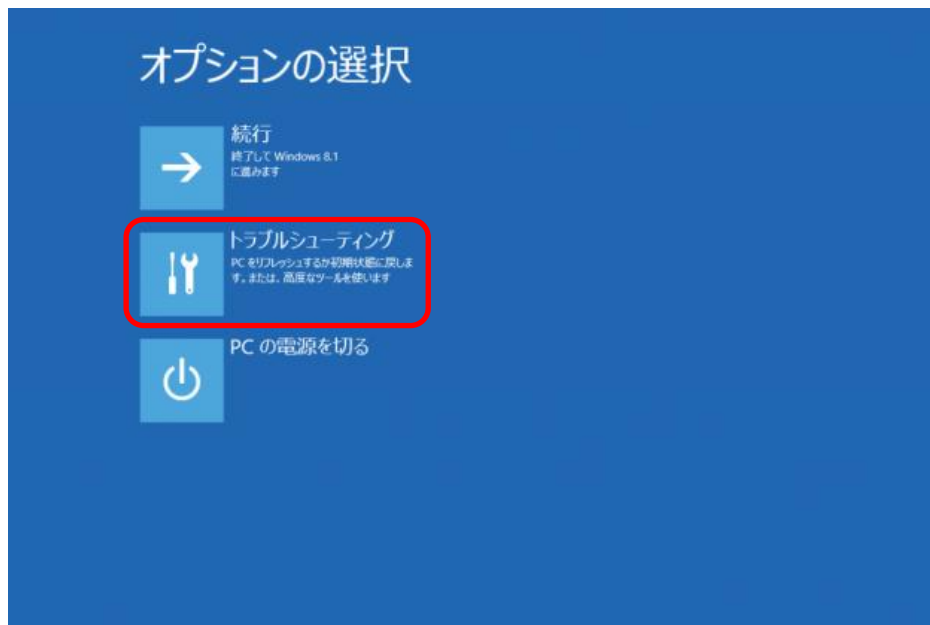
<手順>

(1) PC のデスクトップ画面より、キーボードの Shift キーを押しながら「再起動」を行ないます。

※以下のデスクトップ画面は Windows10 の物



(2) オプションの選択画面が表示されますので、「トラブルシューティング」→「詳細オプション」→「スタートアップ設定」→「再起動」の順に選択します。



④ トラブルシューティング



PC のリフレッシュ
お使いの PC の動作が不安定な場合は、PC をリフレッシュしてみてください。ファイルには影響はありません。



PC を初期状態に戻す
PC を初期状態に戻し、ファイルをすべて削除します。



詳細オプション



④ 詳細オプション



システムの復元
PC に記録された復元ポイントを使って Windows を復元します。



コマンド プロンプト
高度なトラブルシューティングのためにコマンド プロンプトも使えます。



イメージでシステムを回復
特定のシステム イメージ ファイルを使って Windows を回復します。



スタートアップ設定
Windows のスタートアップ動作を変更します。



スタートアップ修復
Windows の読み込みを妨げている問題を修正します。



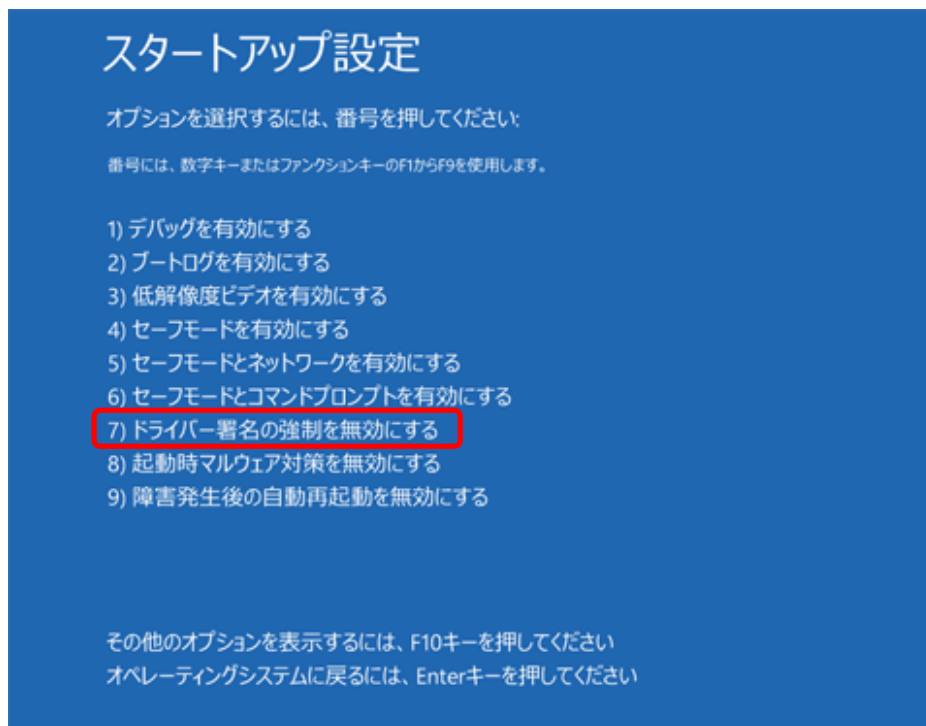
④ スタートアップ設定

再起動して、次のような Windows オプションを変更します:

- 低解像度ビデオ モードを使う
- デバッグ モードを使う
- ブート ログを使う
- セーフ モードを使う
- ドライバー 署名を強制しない
- 起動時マルウェア対策をしない
- システム障害時に自動的に再起動しない

再起動

- (3) スタートアップ設定画面で、「7) ドライバー署名の強制を無効にする」を選択するために、キーボードの F7 キーを押します。



以上の操作により起動した状態で、通信用ドライバーのインストールを行ってください。

※通信用ドライバーのインストール、アプリケーションソフトのインストールについては、アプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

※通信用ドライバーはインストールを2回行いますので、OSによってはこの操作をその都度行う必要があります。

※使用する PC のセキュリティによっては、この方法が使えない場合があります。

以上